

21世紀社会デザイン研究科 連続シンポジウムのご案内

「認知症と成年後見制度について ～現場から考える社会デザイン」

～ シリーズ第2回「認知症ケア」について ～

【第2回】6月11日（土）「認知症ケア」について福祉専門家、看護師が講演します
<日 時> 【第3回】7月30日（土）「成年後見活動」について司法書士、NPO代表、社会福祉士が講演します
各 13:30～16:30

※【第1回】5月28日（土）【盛況のうちに終了しました】

<場 所> 池袋キャンパス 太刀川記念館3階多目的ホール

認知症が現代の社会的課題となっています。認知症患者は現在 520 万人と推計され（厚労省）、加えて MCI（軽度認知障害）の人々が多数います。MCI の人々の何割かは将来認知症へ移行すると言われていています。団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に認知症患者は 700 万人まで増加し、高齢者の 5 人に 1 人が認知症となる見通しです。しかし、社会の備えは十分であるとは言えません。医療、介護、成年後見などの制度は有りますが、肝心の地域社会における相互の連携は十分ではありません。

本シンポジウムでは、認知症や成年後見と深い関わりを持つ各界の方々が現場や学術の視点から認知症にどう対処すべきかを講演し、参加者と意見交換する場を提供します。対象領域が多岐にわたるため、連続 3 回のシンポジウムを行います。

【第1回】は「認知症医療と意思決定支援」について精神科医、弁護士が講演します（終了）
★【第2回】は「認知症ケア」について福祉専門家、看護師が講演します。
【第3回】は「成年後見活動」について司法書士、NPO代表、社会福祉士が講演します。

各回とも講師が講演を行い、その後長坂教授がファシリテーターとなり講師とのパネル討論を行い、最後に会場参加者との意見交換を行います。本シンポジウムを通じて、認知症と成年後見制度に関する社会デザインをどのように構築すればよいのか、講演者と参加者が共に考える機会を提供します。

<講 師>

【第2回】認知症ケアと福祉、看護について
柴田 洋弥 氏（日本自閉症協会常任理事）
永田 久美子 氏（認知症介護研究・研修東京センター研究部長）

【第3回】認知症と成年後見活動について
高橋 弘 氏（けやき野司法書士法人経営責任者）
土井 雅生 氏（認定 NPO 法人成年後見なのはな代表理事）
小林 有紀子 氏（社会福祉士、多摩南部成年後見センター）

※ 第1回 認知症と医療、意思決定支援については、盛況のうちに終了しました
新田國夫氏（医療法人社団つくし会新田クリニック理事長）
水島俊彦氏（弁護士、法テラス八戸法律事務所）

<ファシリテーター> 長坂俊成（21世紀社会デザイン研究科教授）

<討論参加者> 櫻井幸男（21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程）

主 催： 21世紀社会デザイン研究科 共 催： 社会デザイン研究所

対 象： 21世紀社会デザイン研究科学生、本学学生、教職員、校友、一般市民

定 員： 100名（申込不要）

問合せ先： 21世紀社会デザイン研究科委員長室 tel：03-3985-2181（月～木）11:00～18:00

受 講 無 料 / 申 込 不 要